

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームあさがお	評価実施年月日	H21.1.23
評価実施構成員氏名	中村 典子 藤田 美代子 松尾 紀子 南波 栄子 藤原 恭子 遠藤 由加子 幡司 恭子 山本 真弓 宮本 祥子 畠山 郁子 武田 富子 高石 明美 菅原 弥生		
記録者氏名	岡田 由利枝	記録年月日	H20.12.19

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>独自の運営規定を作成している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>定例のミーティング時や朝のミーティングに、折にふれ共有し実践に向けて努力している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には、契約時に最初の説明を行い、その後は折に触れ繰り返し伝えていきます。 又、あさがお便りを活用している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>回覧板を持って行ったり、散歩・廃品回収等でお会いした時等、声をかけ合っている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の一員として、親睦会や廃品回収等に参加し、交流に努めている。 又、地域の小学生の吹奏楽も聞かせて頂いたりしている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>町内の親睦会等や道でお会いした際に、何かありましたらどんな事でも言って下さいねと声かけしている。 又、施設の空いている時には、地域の会合等に使って頂けるよう話をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の意義と目的を全職員に伝え全員で取り組むことで再認識し理解を深め、今後のサービス向上につながっている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用状況説明や取り組みの報告の段階で意見が出た際には、その旨を検討しサービス向上に努めたいと考えている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	疑問点や理解に困った時は担当者に電話で聞いたり、出向いたりし教えて頂いて対応に当たっている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修時で学んだ事をミーティング等で報告しあっているが、今後利用者に必要になった時には活用したい。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設外勉強会に参加し、学んだ事をミーティング等で報告し事業所内での虐待防止に努める様勉強会を行っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ていねいに説明を行い、理解をして頂き、納得してもらっている。又、ご家族のお話や状況を十分お聞きし、不安も解消して頂けるよう関わっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>常に利用者が意見を訴える事が出来るし、聞く耳を持つ事を大切にしている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>ご家族が面会時、近況報告を行う事と変化があった時はすぐ連絡し報告を行っている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時、ご家族に介護サービスを含め施設に対して何かありませんかと尋ねている。改善しなければいけない事があれば直しますので、と伝えている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月定例ミーティングを行っていて、勉強会を行ったり職員の提案等出してもらい、皆で検討し良いことは実行している。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>当施設は、まず利用者・ご家族の要望を一番に考え柔軟に調整出来るよう配慮している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>常日頃に職員はお互いに良い人間関係を作り、馴染みの職員が関わっていくことが重要と考えており長く働いてくれる事が利用者にとって良いサービスを提供出来る事であると努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部の勉強会はもとより、外部の研修にも参加させており、グループホーム協議会等の研修の情報も提供し各自認知症についての勉強に努力されている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地区の包括支援センターで行うケアマネ等の勉強会やネットワーク作りに参加している。 又、グループホーム協議会の研修にも参加し、交流の機会を持っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	お互いに気軽に話し合える機会(個々であったり合同ミーティングであったり)を作っている。 又、各事業所ごと及び他事業所の職員との食事会等でストレスを発散してもらえるようにしている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個々の努力や関わり方の良かった事があった時はその都度本人を褒め、今後もその気持ち等を大切に継続して頂きたい旨を話す。 又、職員の資格取得に向けて支援し、取得後は本人の意向を受けとめ、職場内で活かして働ける環境作りに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	居室に訪室し、個々に困っている事がないか、何かしてほしい事がないか聞き、受け止めるよう努力すると共に、安心して過ぎて頂けるよう配慮することに重視した関わりを持っている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の困っていることや、不安に思っている状況を良く聞き事業所として、どのような支援が必要になるかを話し合いご家族に安心して利用して頂けるよう努めている。 又、入居後は面会時には必ず何かありませんかと訪ねて、解決に努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人やご家族の思い、現在の状態を確認し、支援内容の提案等を何度もご相談しながら、必要なサービスにつなげている。 又、早急に必要な相談に対しては、柔軟な対応し他の事業所のサービスにつなげるようにしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	最初は雰囲気を見て頂くため、見学又は体験の時間を作ると共に、職員が関わり他の利用者さんとの交流に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	嬉しい事、楽しい事を職員と利用者さんが、一緒に喜び、悲しい時も一緒に支え合いながら暮らすことにより、信頼関係を深めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時に利用者さんの日々の暮らしの中の出来事や気づきを報告し、一緒に喜び合って本人と一緒に支えるために家族と同じ思いで関わっている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居迄のご家族との関係を知った上で、入居後更に良い関係が継続出来る様、面会時には良い雰囲気が作れるよう配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前の馴染みの深い方に遊びに来て頂けるよう配慮したり、出向いて行けるよう送迎し関わりを継続できるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者が孤立した生活にならないよう、一日の生活時間の中で、居間で共有の場と、居室での自分の時間を作り、その方に合った時間作りを行っている。 又、毎日のお茶の時間には、職員も一緒に入り、利用者同士の関係が円滑に出来るよう関わっている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	終了後の状況等をお聞きしたり、何か相談等がありましたら連絡頂けるような関係を大切にしている。 又、他の事業者に移られた方の所に、職員と一緒に遊びに行ったり来たりと交流を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意向をしっかり受け止め、本人らしい暮らしをご家族を交え検討し、個別に支援している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に現在迄の生活歴を本人とご家族よりお聞きする事と、毎日の会話の中から引き出すよう働きかけを行っている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝のミーティングや業務日誌の記録等で一日の過ごし方が把握出来ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人やご家族からの希望又は、介護面での変化等をミーティング時に話し合い、お互いの意見等を出し合い、反映された計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご家族やご本人の希望を取り入れながら期間終了前に見直しすると共に、状態が変化した時には終了する前であっても話し合い見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護経過等の記録に日勤帯、夜勤帯等色分けし見やすい記入を行っている。勤務に入る前には、必ず確認を行ってから業務につくよう義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の希望とご家族の希望に応じ、常に柔軟なサービス提供を活かし支援している。又、緊急の宿泊、通い等臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて連携し、ボランティア等の協力を頂いている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	小規模多機能利用の利用者さんが、在宅が不可能となり、危険性のリスクが強くなった事により他のサービス事業者さんとの話し合いにより、支援を受けている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターで関わっていた利用者が当事業所でサービスを受けたいとの訴えで、包括の職員と協働し利用開始となっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご本人やご家族の希望するかかりつけ医としている、又、受診や通院はご家族の希望に応じて対応している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要な利用者には、専門医の受診を行う。又、主治医により認知症についても診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師を職員として確保しているため、その日その日の健康管理や医療活用は密に出来ている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>病状が安定した場合等、早く自室で安心して暮らせるよう、施設で出来る状況を病院側に伝え、本人やご家族の希望があれば相談に努め速やかな退院支援に結びつけている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>身体状況の変化を十分に把握し、本人の希望とご家族等の意向も伺い、主治医に伝え、主治医とご家族との確認をし、身体状況の変化のたびに繰り返し話しをすることで、ご家族の気持ちの変化や本人の思いに目を向け支援につなげている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人や家族意向を踏まえ、看護師を中心に医師・職員が連携をとり、重度になっても安心して過して頂けるよう取り組みを検討している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族には新しい場所を見て頂きご本人が住みごち良い暮らしができるかの確認をしてもらう等、十分に話し合いを行うよう努め、これまでの暮らしが継続出来るよう、これ迄の生活状況や支援の内容、注意事項の情報提供する等連携を行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>本人のプライバシーを損なう様な言葉を使ってケアを絶対しないこと。あさがおの二つのオアシスを守ると共に、記録にも十分配慮している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>何事にも職員が決めて、おしつけるのではなく、いくつかの選択肢を提案して、利用者が自分で決めて頂けるよう関わっている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々の生活リズムを大切に過ごしてもらい、それに向けて職員が支援を行っている。 又、図書館や買い物等一人ひとりの気持ちに配慮しながら対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>着替えについては基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや介助が必要な時手伝うようにしている。 又、本人の行きつけの理美容院に行ったり訪問理美容でも本人の望む所を利用している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理の味見や調理で出来る事は一緒に行っている。誤嚥に注意し、見守り、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食べている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好物を把握し、楽しめるよう支援している。 又、たばこについては昼間は自分で持ち、夜間は職員が預かり本人の希望にそって他の利用者さんの迷惑にならないよう喫煙場所で吸えるよう配慮している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	必要な方には排泄表を作成し、排泄間隔をつかみ、誘導する事を行い極力トイレでの排泄に心がけている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個々の希望に合わせた入浴で楽しんで頂いている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の生活習慣に合わせて、安心した眠りや休息をして頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の能力や好みを把握し、クラブ活動やレクリエーション等で楽しんでもらっている。 又、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	十分理解し、ショッピングや理美容でも自分の財布から支払って頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望を極力叶えるように努めている。ショッピングや図書館、友人との食事会等と外出しているし、送迎を行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	文化施設へ見学や、コンサート・ドライブへ出かけている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個々の居室に電話の設置が出来るようになっており、付けている入居者さんも多い。 手紙もポストに職員と一緒に出しに行く。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問して頂けるよう声かけすると共に来てくれた方が再度気軽に訪問して頂けるような雰囲気作り等に配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	権利擁護や身体拘束の勉強会を実施すると共に身体拘束廃止マニュアルにそって、拘束をしないケアを行っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	時と場合により、利用者の強い不穩により危険を伴う時には、短時間ではあるが玄関の鍵をかける場合もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	その日の見守り職員は、利用者とのコミュニケーションを行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努め常にプライバシーに配慮したケアを行い、夜勤帯でも、全体を良く見渡せるようになっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人の状況を把握した上で、個々に考えた上で本人管理としたり、介護員預かりとして、必要な時には介護員の見守りの中で使用して頂いている。又、危険な包丁やハサミ等は、鍵を付けて保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定例のミーティング時に勉強会や実技指導を受ける等、又、一人ひとりの状態の確認を常に行っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生マニュアルの勉強会及び応急手当の実技勉強会を行い、お互いに実技を行い合い訓練を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回利用者と一緒に避難誘導訓練と消火訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力をお願いしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時又は、身体状況等の変化がみられた時には、必ずご家族に可能性が考えられるリスクについては、確認し合い十分注意することを徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状態をしっかりと把握することで、異変の発見が出来、早い対応に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬局より頂く効能表を読むことにより認識を深めている。服薬時はきちんと服用できているかの確認を行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れる等の配慮し、十分な水分摂取の声かけと体操やゲームに参加して体を動かすことにより、腸のせん動を良くするよう努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後歯みがきの声かけを行うと共に見守りの中で行ってもらっている。又、食事の時に歯の状態にも観察を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	健康状態により、必要な人に対してはチェック表の記録を行っている。定期的な嗜好調査により嗜好を把握し、栄養バランスにも配慮を行っている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルにそって予防や対応に全職員による勉強会を実施するとともに利用者と、ご家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用する等手洗いの徹底を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器・まな板・ふきんは毎食後漂白し、清潔に努めている。新鮮で安全な食材を使用するため買い物は一日置きとしている。 又、冷蔵庫や冷凍庫内は頻繁に清掃を行い食材の残りも点検している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前や建物周囲に花のプランター等を置いたり、玄関の中も手作りの小物を置いたり明るい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音や光等、スクリーン等で配慮し、季節の花鉢等を置き、居心地良い暮らしに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや食堂等好みの場所を選択して過ごして頂いている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使いなれたものを、ご家族と相談し持ち込まれていて、居心地の良い生活空間を作っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気が設置されているが、設置のない場所には、脱臭器を設置し臭いと温・湿度には特に配慮をし、健康管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>全事業所をバリアフリーとし、手すり及び介助バーを設置し、安全な生活が送れるよう配慮している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室では、本人が使いなれたものを、居間等の配置を替えない事により、混乱を防ぎ安心して暮らして頂けるよう配慮している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>プランターに季節の花や野菜等を植え、利用者さんに水やり・草とり・収穫と、職員と一緒に育てて楽しんでいる。</p> <p>また、玄関先にベンチを置いて、利用者が日向ぼっこが出来るよう設置している。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない →①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない →①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない →①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない →①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない →①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない →①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない →①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない →①

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>→①</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>→①</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>→①</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>→①</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>→①</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)